

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Webデザイン I	(NGM11Q)
講義名 (コード)	Webデザイン I	(NGM11QX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数 1
授業担当者	小笠原 あやの	時間数 30
成績評価教員	小笠原 あやの	講義期間 春学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	空気猫デザイン研究所 代表	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デザインの要素を整理し、わかりやすく相手に伝えるための基本的な手法を理解し、実践する。
全体的内容と概要	普段目にすることの多いDTP、WEB広告などを制作しながら、「色」「フォント」「画像」などその要素の役割、効果的な表現を学び、実践していく。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上で期末試験受験者を対象とし、授業内ワークへの参加態度並びに意欲も評価対象とする。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	制作実例の紹介、授業の進め方とWEBマーケティング・デザインの基本的な説明
2	シンプルな表現で、相手に伝えることができる	効果的なキャッチコピーを考えよう
3	基本的な要素を組み合わせることができる	ソフトの操作に慣れながら、自己紹介のPOPを作ろう
4	身近にあるデザインを意識して探すことができる	街に出て、気になる看板やポスターを探そう
5	身近にあるデザインを意識して探すことができる	街で見つけたデザインを発表する
6	チーム内で意見を出し合いながら協力することができる	《グループワーク》 体育祭のポスター作り
7	チーム内で意見を出し合いながら協力することができる	《グループワーク》 体育祭のポスター作り、発表
8	著作権の意味と内容、余白の大切さについて理解することができる	著作権について理解しよう・自分の手をデッサンする
9	自分のイメージを象徴化し、他人に「伝える」デザインにすることができる。□	自分自身のシンボルマーク（ロゴマーク）を作ろう
10	自分のイメージを象徴化し、他人に「伝える」デザインにすることができる□	自分自身のシンボルマーク（ロゴマーク）を作ろう 発表
11	コンセプトやターゲットを絞った広告を制作できる	自分のお店の広告制作
12	コンセプトやターゲットを絞った広告を制作できる	自分のお店の広告制作
13	コンセプトやターゲットを絞った広告を制作できる	自分のお店の広告制作、発表
14	期末テスト	お菓子のオリジナルキャラクターを作ろう
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	Webリテラシー I		(NGM11S)
講義名 (コード)	Webリテラシー I		(NGM11SX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	デザインルームエム水寄	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム水寄	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	(有)デザインルームエム 所属	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	WEBビジネスをするうえで使用するWEBツールを把握し、基本の用途や使い方を知る
全体の内容と概要	WEBビジネスにおいてよく使われるサービスや用語、各サービスの概略を知り、実際に触れて使い方を体験し、スキルを習得します。
授業時間外の学修	ツールを使用するうえで、必要なデータや写真の収集・取材等をお願いすることがあります。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	本授業の概要と、アカウント管理の基本がわかる	この授業で目指していくことを把握し、すべての基礎となるアカウントとその管理方法について学ぶ。また、実際にGoogleアカウントの作成を行う。
2	グループウェアの役割と使い方がわかる	グループウェアについて学び、サービスごとの違いを比較した上で、条件別に導入するサービスを選定する。また、使用する上でのルールを作成する。
3	WEBメールとクラウドサービスの概要がわかる	WEBメールとクラウドストレージについて学ぶ。GmailとGoogleDrive等を使用して、共同編集とファイル共有を行う。
4	タイピングの基本と習慣化するための方法がわかる	WEBビジネスの基礎中の基礎となるタイピングを身につける。タイピング練習ができるWEBサービスを使用する。
5	生成AIの適切な使用方法と用途がわかる	生成AIについての概要を学び、活用方法を知る。また、実際に生成AIを使用して、文化祭に実施できそうなアイデア出し・ブラッシュアップを行う。
6	ビジネス上でのSNSの使い方と役割がわかる	SNSの概要と種類、特性、個人とビジネスでの用途の違いを学ぶ。また、1年通して実施するSNS実習について概要を把握する。
7	事業でSNSを運用する際の注意点がわかる	地域と連携したSNS事業の実施。事業連携でSNSを運用する際の注意点などを把握した上で、取材計画を立てる。
8	取材に行く際に配慮すべきポイントがわかる	実際に周辺地域に出かけ、注意点や取材先などへの配慮を行いながら、計画に沿って取材を行う。
9	オンラインデザインプラットフォームの使い方がわかる	オンラインデザインプラットフォームを使用して、SNS投稿のコンテンツを作成する。
10	SNSにおけるキャプション・ハッシュタグの役割がわかる	作成したコンテンツをSNSに投稿する。ビジネス用途でのSNS活用例の確認と、キャプションの書き方・ハッシュタグの付け方について学ぶ。
11	タスク管理の役割と使い方、チームでの使用方法がわかる	オンライン・複数ユーザーでタスク管理を行う方法を学ぶ。また、実際に文化祭までのタスクを作成し、タスクリストとガントチャートを作成する。
12	クラウド共同編集の方法と企画書の必要性がわかる	文化祭に向けたアイデアを厳選し、Googleドキュメント等を使用して企画書を作成する。また、企画書を作成する目的と必要性について学ぶ。
13	クラウド共同編集の方法と、企画実施に必要な資料がわかる	プロジェクト実施に向け、予算書・企画プレゼンをチームごとに分かれて作成する。また、共有フォルダを作成・管理する方法を確認する。
14	まとめ	スキルと知識・応用力を確認するテストを実施する。
15	まとめ	スキル確認を受けて、後期の課題を確認する。また、文化祭に向けて、後期授業で実施するタスクの確認と情報共有・準備を行う。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	言語学者、生成AIを危ぶむ 子どもにとって毒か薬か（朝日新聞出版） いちばんやさしいAI時代のコンテンツマーケティングの教本 人気講師が教える「信頼される」企業になるための情報戦略（インプレス）
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	グラフィックデザイン基礎 I		(NGM11U)
講義名 (コード)	グラフィックデザイン基礎 I		(NGM11UX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	小笠原 あやの	時間数	30
成績評価教員	小笠原 あやの	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	空気猫デザイン研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	Illustrator、Photoshopの基本的な操作を身につけ、WEBマーケティングに必要なクリエイティブな表現の幅を広げる。
全体の内容と概要	ソフトに馴染み、自分の「こうしたい」表現のためのツールやコマンドを覚える。図形・色・線などの設定から、画像の加工・文字の編集、全体のレイアウトを体験する。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	最終的には誰かに「伝える」ためのデザインになるよう、ゆっくりステップアップしていく。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

回	到達目標	授業内容
1	Illustratorの最も基本となる操作を学ぶことができる。	<Illustrator> 新規ファイル作成と保存 基本図形の作成、手のひらツールとズームツール
2	最もよく使う「選択」機能に慣れることができる。	<Illustrator> オブジェクトの選択（矢印の使い分け）と拡大縮小・回転・移動
3	直線・曲線の描画に慣れ、Illustratorの肝となる機能をマスターすることができる。	<Illustrator> アンカーポイントの調整と変形、ペンツールの基本
4	オブジェクトに塗りや線を加えることで、表現の幅を広げることができる。	<Illustrator> 色と透明度（線・塗り）の調整、スウォッチの使い方
5	オブジェクトを効率よく編集することができる。	<Illustrator> オブジェクトのコピペと色々な整列、グループ化
6	複数のオブジェクトの管理がしやすい、便利な機能を覚えることができる。	<Illustrator> レイヤーの仕組みと活用方法
7	ロゴタイプや本文文字など、バリエーションの多い文字の使い分けを学ぶことができる。	<Illustrator> 線と文字の設定
8	Illustrator上でレイアウトする上で知っておきたい便利な機能を学ぶことができる。	<Illustrator> 画像の配置と埋め込み、クリッピングマスクと効果メニュー
9	Illustratorと似た機能でも、その違いや使い分けを学ぶことができる。	<Photoshop> レイヤーと色調補正
10	選択機能でできるさまざまな表現を学ぶことができる。	<Photoshop> 画像の一部を編集する（選択範囲の作成）
11	さまざまなブラシツールで簡単なイラストを描くことができる。	<Photoshop> 色の設定とペイントの操作
12	画像補正などを行う際に便利なツールをマスターすることができる。	<Photoshop> 色々なツールを使ってみよう
13	文字の基本的な入力や変形を体験することができる。	<Photoshop> 文字の設定
14	複数のオブジェクトを組むレイアウト、シンプルなレイアウトを実践できる。	テスト「自分の名刺」を作ろう
15	フィードバック	「自分の名刺」発表、フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Web経営 I	(NGM12A)
講義名 (コード)	Web経営 I	(NGM12AX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	今野 篤	時間数 30
成績評価教員	今野 篤	講義期間 春学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント(株)経営教育研究所 代表	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デジタル時代の企業経営を考察。マクロ視点で変化する社会と経営の存在意義、人間の役割を考える。
全体の内容と概要	ビジネスの視野を広げるためにケーススタディやグループワークの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	WEB経営の全体像を理解できるようになる	経営学の視点からからWEBと経営、WEB×経営を考えてみる
2	Society5.0の社会について理解できるようになる	人工知能（AI）、ビッグデータ時代に起こることとは
3	不確実な時代に生きる術を考察できるようになる	価値観や消費の変化をとらえて企業成長のきっかけを掴む
4	世界のトレンドや変化を理解できる	世界経済の変遷、格差、先進国で始まる高齢化社会など、自国の課題を抽出する
5	世界の様々な社会問題を理解し、SDGsで問題解決ができる	自国の課題をリストアップし、SDGsで問題解決を図る
6	経営理念の意義を正しく理解できるようになる	ビジョンとミッションについて
7	経営理念について考えを深めることができるようになる	ケーススタディ
8	企業の目的を正しく理解できるようになる	企業の目的は売上か利益か。それとも別なものか
9	企業の目的を正しく理解できるようになる	ワークショップ
10	企業の仕組みを正しく理解できるようになる	企業が永続的に発展するために必要なものはなにか
11	企業の仕組みを正しく理解できるようになる	ワークショップ
12	ステークホルダー経営について理解ができる	企業は誰のものか？ 顧客・従業員・地域・周辺環境との調和を目指す
13	企業の社会的責任について考察ができるようになる	ケーススタディ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	フォトグラフ		(NGM12C)
講義名 (コード)	フォトグラフ		(NGM12CX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	竹下 芽衣子	時間数	30
成績評価教員	竹下 芽衣子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	本コースを修了することで、学生は基本的な写真撮影技術を習得し、自分のポートフォリオやフォトデザインを作成、そしてSNSやフリーランスプラットフォームを通じて実績を積むことができる
全体の内容と概要	写真撮影の基礎から応用までを段階的に学びます。フォト撮影や編集には専用のアプリなど（例：Adobe LightroomやCANVA）を活用します。各週の実践課題ではアプリを使った編集を行い、最終週には自分の作品を発表し、これによって、写真表現と撮影、編集スキルを実践的に身につけます
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	学生が安心して楽しく学べる雰囲気づくり	オリエンテーション、学生自己紹介と異文化交流、今後の授業の流れやルールなど
2	フォトグラフの楽しさや自由さを学ぶ	フォトの基礎の用語や作品集など紹介
3	撮影の仕方から加工の基礎理解	撮影の色々、商業用の商品撮影から自然撮影、人物撮影まで
4	撮影の仕方から加工の基礎理解	撮影の色々、商業用の商品撮影から自然撮影、人物撮影まで
5	撮影の仕方から加工の基礎理解	撮影の色々、商業用の商品撮影から自然撮影、人物撮影まで
6	商品や人物野外での自然撮影など実際の撮影の楽しさを学ぶ	撮影の実習
7	自分の作品を発表を通して自ら評価と改善ができる	発表
8	ディスカッションを通して客観的な視点と撮影意図のブラッシュアップを学ぶ	ディスカッション
9	写真加工の基礎理解	写真加工編集の基礎講座
10	写真加工の基礎理解	写真加工編集の基礎講座
11	写真加工の基礎理解	撮影、編集の実習
12		発表
13	ディスカッションを通して客観的な視点と撮影意図のブラッシュアップを学ぶ	ディスカッション
14	自分の好き興味を見極め表現ができる	興味の追及（好きを深める）作品へのディスカッションなどのアウトプット
15	具体的な目標、内容を決め商品として発表するための課題決めとプレゼン	前期テストの課題決め

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	コンテンツコミュニケーション I	(NGM22E)
講義名 (コード)	コンテンツコミュニケーション I	(NGM22EX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	デザインルームエム水寄	時間数 30
成績評価教員	デザインルームエム水寄	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	SNSマーケティングの基礎と実践を行い、作業フローの確立と効率を高めることを目指します
全体の内容と概要	個人とビジネスでのSNSの役割の違いから、運用戦略の立案、実際の取材・投稿作成・投稿を行う つつ、SNSマーケティングでの基礎を学びます
授業時間外の学修	取材・投稿作成等が授業時間内で完了しなかった場合や推奨投稿時間の指定がある場合、授業時間 外での作業を行っていただく場合があります
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	授業内容を理解し取材・投稿内容が作成できているか。また、指定した期日までに定めたコンテ ンツ作成を完了できるか。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標 をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足 しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	個人とビジネスでのSNSの役割の違いがわかる	本授業で行っていくことの全体像と目指すものを確認。個人使用のSNSの用途と、ビジネス上での用途の比較を行う。
2	SNSにおいて目的・ターゲット・コンセプトの重要性がわかる	SNSアカウントにおいて、目的・ターゲット・コンセプトの必要性を確認し、現在使用しているアカウントの各項目を明確にする。
3	SNSプロフィールの役割と目的別の構成の仕方がわかる	設定したコンセプトに沿ったプロフィール画面の構成を考える。目的別に推奨されるプロフィール構成が変わることを確認する。
4	テキスト情報の役割と使い方がわかる	テキスト情報の役割と効果的な使い方をプラットフォーム別に確認し、それを踏まえた投稿を実際に作成する。
5	SNSのアルゴリズムと閲覧者が気になる構成がわかる	SNSでも最も重要な項目の一つであるアルゴリズムについてと、閲覧者が思わず注目してしまう投稿の特徴について学び、実践する。
6	地域と連携したSNS投稿の計画の立て方がわかる	地域連携SNS事業を題材にし、改めて目的・ターゲット・コンセプトを検討する。また、それを踏まえた投稿計画を立てる。
7	計画に沿った取材の方法がわかる	コンセプトに沿った投稿計画を踏まえ、完成イメージから逆算した取材を計画通りに行う。また、取材時のマナーなども実践する。
8	計画に沿ったコンテンツの作成方法がわかる	取材で集めた素材を使って、計画通りの投稿を作成できるかを作業しながら検討する。また、魅力的な説明文の書き方を学ぶ。
9	SNS上で計測できる数字の概要がわかる	フォロワー数を増やすために計測が必要な数字について学ぶ。また、フォローしたくなるアカウントの共通点や構成などを考える。
10	改善点を見据えた投稿を前提にした取材の方法がわかる	改善点を確認した上で投稿計画を作成し、計画から逆算した素材を事前に想定した上で取材を行う。
11	エンゲージメントと双方向性の重要性がわかる	フォロワー数よりも重要となるエンゲージメントと、エンゲージメント率を高めるための双方向性について学ぶ。
12	短尺縦長動画の流行とその理由について学ぶ	短尺縦長動画の流行の理由と各プラットフォームでの機能の違いを学ぶ。その上で、動画での投稿計画を立て、取材を行う。
13	短尺縦長動画の制作方法と構成がわかる	取材した素材を使って投稿を作成する。またその際、注目されやすい動画構成やレイアウトについて学ぶ。
14	まとめ	SNSに関する用語の確認と、良質なアカウントを発見し客観的分析を行う。また、その内容をプレゼンテーションにまとめる。
15	まとめ	作成したプレゼンテーションを発表し、評価とする。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	ビジネスYouTube 3.0 中小企業のための信頼構築型動画戦略（セルバ出版） SNSマーケティング図鑑（インプレス）
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	SEO	(NGM22M)
講義名 (コード)	SEO	(NGM22MX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	竹下 芽衣子	時間数 30
成績評価教員	竹下 芽衣子	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	検索エンジンの仕組みや最適化手法を理解して、実践的にWebサイトの集客を改善できるスキルを身につける。到達目標は、基本的な最新のキーワード選定、サイト分析、改善、立案ができる
全体の内容と概要	授業では、検索エンジンの仕組み、キーワード選定、メタタグ、コンテンツの最適化、モバイル対応など、基本的な理論と実践的な手法を学びます。自らのWebサイトを分析・改善し、検索順位を向上させるためのスキルを学びます。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	学生が安心して授業を進めるための雰囲気づくり	オリエンテーション、自己紹介、異文化交流、授業の流れとルールの説明
2	SEO基本知識の習得	SEOの基礎と重要性
3	検索エンジンの基本基本の習得	検索エンジンの仕組み
4	キーワード選定の基本の習得	キーワード選定の基本
5	競合分析、AI利用の基本の習得	競合分析、AIを使ったSEO対策
6	コンテンツ最適化の習得	コンテンツの最適化、アルゴリズムアップデートへの対応
7	メタタグの基本習得	メタタグと構造化データ
8	モバイルSEOの習得	モバイルSEO
9	SEOツールの習得	SEOツールの使い方
10	データ分析の基本習得	データ分析と改善策
11	様々なSEO対策への基本習得	ローカルSEO、国際SEO
12	マーケティングを含めた基礎知識の習得	SEOとコンテンツマーケティングの連携
13	基本の操作の習得	実習、サイト作成
14	改善への基礎習得	発表と改善などのディスカッション
15	改善への基礎習得	発表と改善などのディスカッション

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	クリエイティブデザイン I	(NGM22Q)
講義名 (コード)	クリエイティブデザイン I	(NGM22QX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数 1
授業担当者	横内 和加	時間数 30
成績評価教員	横内 和加	講義期間 春学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	個人事業 AERU PLUS 代表	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デザインを単なる装飾ではなく「課題解決の手段」と定義し、現場や実社会で機能するクリエイティブを構築するスキルを習得する。情報の取捨選択と戦略的な視覚演出を学び、対象の魅力を最大化して他者に届ける力を身に付ける。
全体の内容と概要	身近な地域プロジェクトや地域課題を題材に、制作を通じて「課題解決のデザイン」を実践します。前半は共通のモデルケース、後半は自選テーマに取り組み、思考の言語化から制作・発表までの一連のプロセスを体得します。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介。授業の全体像の共有。
2	【前半課題】を理解する	地域プロジェクトの提示：課題の背景を共有。解決すべき「ゴール」を定義。
3	制作準備	情報の優先順位を整理する。導線や骨組みの構築。
4	制作	Canvaを使って、ビジュアル制作
5	制作	ブラッシュアップ：細部の追い込みと、伝わりやすさの最終点検。
6	発表	制作物の披露。公開添削。
7	【後半課題】のテーマ設定とリサーチ	自分で題材を選ぶ。課題の発見と言語化。
8	プロジェクト立案	コンセプト構築：誰に・何を・どう届けるか。解決のシナリオを練る。
9	制作①	テーマに基づいたビジュアル制作の開始。
10	制作②	〃
11	制作③	〃
12	プレゼン構築	制作物の意図や想いを説明するためのプレゼンテーションの作成。
13	プレゼン構築	〃
14	最終調整	作品の最終仕上げと、聴衆に届けるプレゼンの練習。
15	発表	プレゼンテーションの披露、フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	異文化理解 I		(NKT16K)
講義名 (コード)	異文化理解 I A		(NKT16KA)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース/グローバルビジネスコース/観光ホスピタリティコース/WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	グローバル化が進む今日の社会で、ダイバーシティを尊重し、国際理解を深める。
全体的内容と概要	異文化理解の概念や現存する問題などを紹介し、学生自ら考え、グループワーク、ディスカッション、などを行う。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	自己紹介でそれぞれの学生の文化的背景を理解する	各自白い紙に絵や文字で自分を紹介するポスターを作成、自己紹介
2	異文化理解はなぜ必要か、異文化理解とは何かを理解できる	文化とは何か、文化による差異を理解する
3	それぞれの学生の国について、地理的な面から学ぶことができる。	国ごとのグループに分かれそれぞれ自国について、場所（地形）、人口、気候、首都、などを発表する。
4	異文化適応について理解することができる	カルチャーショック、逆カルチャーショックの体験を話す
5	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる①	行動、視点、環境による文化の違いを考える。
6	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる②	発想の転換クイズを行い、柔軟な考え方を養う
7	イメージと固定概念について理解できる	固定観念、ファイリングという脳のはたらきを紹介し、実例とともに理解する
8	ステレオタイプが理解できる	社会的なステレオタイプを紹介し、イメージを話し合う
9	差別について理解することができる①	差別とは何か？差別の種類、それが生まれる背景について理解する
10	差別について理解することができる②	差別の体験を話し、差別をなくすための方法を考える
11	世界各地の価値観について理解する①	価値観について、それぞれの国での考え方について話し合う。
12	世界各地の価値観について理解する②	各地の価値観についての感想と価値観の違いの実体験を話す
13	前期のまとめ	まとめ
14	まとめと解説	期末テスト発表
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	特になし
参考文献・資料等	異文化理解入門その他
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスコンピューティング I		(NKT16M)
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティング I A		(NKT16MA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース/WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター (株)、東京精電 (株) 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	Windows11による基本的なパソコン操作およびMicrosoftOffice2021の基礎を習得する 基本的なビジネス文書やプレゼンテーション資料を作成できるようになることを目指す
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 前期でWord・PowerPoint、後期でExcelを学習します
授業時間外の学修	メニューの操作方法、文章の構成など授業内容を復習してください。 自分のスマートフォンを使っても学習ができます。
履修上の注意事項等	資格取得の意欲がある学生には資格試験 (MOS・日商PC検定) の練習もおこないます。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Windowsの基本操作ができる タッチタイピングを覚える	教室の使い方、注意、システムの説明・Windows11の基本操作 タイピングソフトを利用したタイピング練習
2	Wordを起動し保存・終了・文字入力の 基本操作ができる	Wordの基礎・文字入力（ファンクションキー変換・IMEの使用・記号の入力） 短文入力
3	Word ページ設定・編集機能の利用ができる	ページ設定・編集機能 複写・削除・移動の利用
4	PowerPointの基礎操作ができる	PowerPointの概要、起動、新規作成、画面構成確認、入力、保存 （スライドの挿入、箇条書き、図形の挿入、表作成、図の挿入）
5	PowerPoint スライド、挿入した オブジェクトの編集ができる	書式設定、箇条書きの変更、図形の変更、表の編集、図の編集
6	PowerPoint スライドショーの実行 ブラッシュアップ機能が操作できる	テーマ、アニメーション、スライドショー、スライドの印刷設定 スライドマスターを使ったテンプレートの変更方法
7	Word 社内・社外文書を理解し 表の作成・編集ができる	ビジネス文書（社内文書・社外文書）の入力 配置・箇条書き・フォントの変更・表の作成・編集
8	Word 表の入った文書を作成できる 表の編集ができる	例題文書作成→書式の変更（社内文書の配置確認・切り取り線の作成など） 例題文書作成→表の編集（社外文書の配置確認・表の作成、編集など）
9	Word オブジェクトを操作できる	画像・テキストボックスの入った文書作成 （ワードアート・画像・テキストボックス挿入）
10	Word 文書に合わせた画像の操作ができる	画像の入った文書作成 表の操作確認・図形の入った文書作成
11	復習 Word	テスト前練習問題 すべての機能を活用したビジネス文書作成
12	復習 PowerPoint	テスト前練習問題 すべての機能を活用したスライド作成
13	復習 Word・PowerPoint	テスト前練習問題 すべての機能を活用したビジネス文書作成・スライド作成
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	30時間でマスターOffice2021
参考文献・資料等	各問題集の練習問題、レベルに応じた資格試験の練習問題
備考	担当教員はIT業界での実務経験を活かし、 Microsoft Office製品各種の操作を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスコンピューティング I	(NKT16M)
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティング I F	(NKT16MF)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	宮原 祥子	時間数 30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語OSでのパソコン操作、Microsoft Officeの基礎を習得する 日本語入力をマスターし基本的なビジネス文書、プレゼンテーションを作成する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 前期でPowerPoint、後期でExcelを学習します
授業時間外の学修	日本語入力をマスターすること、日本語のパソコン、アプリケーションを使えるようになりましょう 自分のスマートフォンを使っても学習ができます
履修上の注意事項等	日本語のメニューを見て操作ができるようになりましょう 資格試験もあるので1年生のうちに基礎を身につけるようにしてください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Windowsの基本操作ができる 日本語でのタイピングを理解する	教室の使い方、注意、システムの説明・Windowsの基本操作（初回の授業の方で） タイピングソフトを利用したタイピング練習
2	PowerPointの基礎を理解する	PowerPointの概要、起動、新規作成、画面構成確認、入力、保存
3	スライドのレイアウトの種類 オブジェクト操作を理解する	スライドの挿入、箇条書き、図形の挿入、表作成、図の挿入
4	スライド、挿入したオブジェクトの 編集ができる	書式設定、箇条書きの変更、図形の変更、表の編集、図の編集
5	スライドショーの実行ができる 配布資料の印刷設定ができる	テーマ、アニメーション、スライドショー スライドの印刷（印刷設定、ヘッダー・フッターについて）
6	ブラッシュアップ機能が操作できる	配色・テキストの書式設定の変更 スライドマスターを使ったテンプレートの変更方法
7	Excelのグラフを挿入して 編集できる	グラフや図形の挿入（Excelのグラフ挿入）
8	オブジェクトの挿入ができる	グラフや図形の挿入（図形・SmartArt・オンライン画像の挿入）
9	PowerPointにグラフを挿入できる	PowerPointでグラフ作成 Excelとのちがいを確認、書式の設定
10	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
11	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
12	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
13	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2021 留学生のためのパソコン入門
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント、タイピング練習ソフト（MIKA TYPEほか）
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	キャリアデザイン I		(NKT160)
講義名 (コード)	キャリアデザイン IA		(NKT160A)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネスコース	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース/観光ホスピタリティコース WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	出席率70%以上の者を期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容を理解し、主体的に取り組む必要性を知ることができる	【オリエンテーション】講師自己紹介、前期の内容について説明、教材配布 【演習】学生による自己紹介 【演習】キャリア面談票の記入
2	基本的なビジネスマナーを知る	【ビジネスマナー】社会人に必要とされるマナーについての理解、非言語コミュニケーション 【演習】学生同士で学んだことを練習
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職活動スケジュールと進め方】就職事情について 【演習】進路活動ハンドブックの使い方、記名、活用方法について
4	キャリアについて理解できる	【キャリアについて】キャリア意識、マインド、社会人基礎力について 【演習】自分が考える「キャリア」について発表 【宿題】メンターを決め、その人の「仕事観」「人生観」をヒアリング
5	レジリエンスについて理解し、自分の強みを発見することができる	【レジリエンス】レジリエンスについての理解、人生曲線の説明と記入 【演習】強みの発見
6	インターンシップについて理解することができる	【インターンシップ】インターンシップとは、企業への連絡、電話の方法 【演習】インターンシップについて検索し、自分がインターンに行く企業を探す
7	自己分析し、自己紹介ができる	【自己分析】長所確認～自己PR 【演習】自己紹介文作成、発表（1分/人）
8	他人の紹介ができる	【他己紹介】友達の長所発見 【演習】友達の長所記入、シェア
9	自己PR書の作成ができる	【自己PR】自己紹介、長所、他者から見た自分の良いところを活用 【演習】自己PR文作成、発表（2分/人）
10	雇用、社会、企業を理解できる	【仕事理解①】仕事の世界、産業と仕事、仕事と資格 【演習】自分の興味のある産業を考える
11	どんな仕事があるかを理解できる	【仕事理解②】職業情報収集について 【演習】自分の気になる仕事について調べる、発表（2分/人）
12	筆記試験について理解できる	【筆記試験対策】筆記試験の種類 【演習】筆記試験の問題を解く
13	与えられた課題についてグループディスカッションができる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいことと、その手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
14	チームワークで課題についてまとめることができる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいことと、その手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
15	前期試験	【前期試験】記述式+13&14のプレゼンテーションの総合点で評価

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『就職内定基本テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	マーケティング基礎 I	(NKT16Q)
講義名 (コード)	マーケティング基礎 I E	(NKT16QE)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	今野 篤	時間数 30
成績評価教員	今野 篤	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日々の生活や行動からマーケティングを考えてみる そしてマーケティングの仕組みを理解し活動意義を探求する
全体の内容と概要	マーケティング的思考をしっかりと身に付け、ビジネス視野を広げ 理解を深めるために、ケーススタディやグループワークの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	マーケティング活動について理解できる	マーケティングとはどのような活動なのか、自分の言葉で考えてみる
2	マーケティングの歴史を理解できる	マーケティングはいつからあるのか。またどこでどのようにして誕生したのか
3	マーケティングの概念と仕組みを理解できる	マーケティングを構成する要素である「概念」と「仕組み」について考察する
4	マーケティング・コンセプトを理解できる	マーケティングのコンセプトは時代とともに変化してきている。マーケティングを時代背景とともに考えてみる。
5	①生産指向を理解できる	企業の生産志向とはなにか。時代を遡って考えてみる
6	〃	ケーススタディ
7	②販売指向を理解できる	企業の販売指向とはなにか。様々な販促を通して考えてみる
8	〃	ケーススタディ
9	③顧客指向を理解できる	企業の顧客指向とは何か。販売指向との違いを考えてみる
10	〃	ケーススタディ
11	④社会指向を理解できる	企業の社会指向とはなにか。SDG s をテーマに考えてみる
12	〃	ケーススタディ
13	SDG s の具体的なアクションを考 えることができる	ワークショップ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Webマーケティング基礎 I	(NKT16S)
講義名 (コード)	Webマーケティング基礎 I G	(NKT16SG)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	小笠原 あやの	時間数 30
成績評価教員	小笠原 あやの	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デザインの要素を整理し、わかりやすく相手に伝えるための基本的な手法を理解し、実践する。
全体の内容と概要	普段目にすることの多いDTP、WEB広告などを制作しながら、「色」「フォント」「画像」などその要素の役割、効果的な表現を学び、実践していく。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上で期末試験受験者を対象とし、授業内ワークへの参加態度並びに意欲も評価対象とする。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

--	--	--

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	制作実例の紹介、授業の進め方とWEBマーケティング・デザインの基本的な説明
2	シンプルな表現で、相手に伝えることができる	効果的なキャッチコピーを考えよう
3	基本的な要素を組み合わせることができる	ソフトの操作に慣れながら、自己紹介のPOPを作ろう
4	身近にあるデザインを意識して探すことができる	街に出て、気になる看板やポスターを探そう
5	身近にあるデザインを意識して探すことができる	街で見つけたデザインを発表する
6	チーム内で意見を出し合いながら協力することができる	《グループワーク》 体育祭のポスター作り
7	チーム内で意見を出し合いながら協力することができる	《グループワーク》 体育祭のポスター作り、発表
8	著作権の意味と内容、余白の大切さについて理解することができる	著作権について理解しよう・自分の手をデッサンする
9	自分のイメージを象徴化し、他人に「伝える」デザインにすることができる。□	自分自身のシンボルマーク（ロゴマーク）を作ろう
10	自分のイメージを象徴化し、他人に「伝える」デザインにすることができる。	自分自身のシンボルマーク（ロゴマーク）を作ろう 発表
11	コンセプトやターゲットを絞った広告を制作できる	自分のお店の広告制作
12	コンセプトやターゲットを絞った広告を制作できる	自分のお店の広告制作
13	コンセプトやターゲットを絞った広告を制作できる	自分のお店の広告制作、発表
14	期末テスト	お菓子のオリジナルキャラクターを作ろう
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	Listening I		(NKT17C)
講義名 (コード)	Listening I		(NKT17CX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	BRADT MARK JEFFREY	時間数	30
成績評価教員	BRADT MARK JEFFREY	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	To increase English listening comprehension in both professional and social situations.
全体の内容と概要	Textbook listening activities, audio video listening activities, TOEIC Listening exercises
授業時間外の学修	AI speaking partner assignments.
履修上の注意事項等	We will discuss rules regarding AI in class.

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画	

回	到達目標	授業内容
1	Introduction	Course introduction. Listening strategies (gist vs. detail, prediction). Unit 1: introductions and basic listening for names and details..
2	Can understand descriptions of people.	Units 2-3. Listening for topic, gist, and details (people, clothes).
3	Can understand routines and everyday information.	Units 4-5. Listening for time, numbers, dates, and schedules.
4	Can understand work and daily life topics.	Units 6-7. Listening for gist, details, and preferences.
5	Can understand activities and frequency.	Units 8-9. Listening for frequency, predictions, and location.
6	Can understand family and social topics.	Units 10-11. Listening for similarities, details, and invitations.
7	Can understand numbers and prices.	Units 12-13. Listening for numbers, details, and attitudes.
8	Can understand everyday conversations.	Units 14-15. Listening for topics, reactions, and travel situations.
9	Can understand housing and living situations.	Units 16-17. Listening for details, plans, and certainty.
10	Can understand predictions and general topics.	Units 18-19. Listening for gist, predictions, and shopping conversations.
11	Can understand descriptive language.	Units 20-21. Listening for details, descriptions, and directions.
12	Can understand people and places.	Units 22-23. Listening for opinions, similarities, and preferences.
13	Can understand health and real-life situations.	Unit 24 + review practice. Listening for advice, details, and overall comprehension.
14	Exam Prep.	Review of all units. Practice listening for gist, detail, and inference.
15	Exam / Feedback.	Final listening test. Feedback and Q&A.

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Basic Tactics for Listening
参考文献・資料等	Worksheets, Audio/Video Files and misc references.
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	動画マーケティング	(NKT17E)	
講義名 (コード)	動画マーケティング	(NKT17EX)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース/観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	横内 和加	時間数	30
成績評価教員	横内 和加	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	個人事業 AERU PLUS 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ターゲットと目的に合わせ、最適なプラットフォームを選択し、視聴者の行動を促す動画の企画・制作・運用ができるようになる
全体の内容と概要	単なる制作技術の習得に留まらず、戦略的な動画活用術を学びます。SNSの特性に合わせた企画から、撮影・編集、投稿後のデータ分析までを実践。視聴者の離脱を防ぎ、集客や販促などの目的を達成するためのロジカルな動画制作・運用スキルを養います。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業の準備を整える	自己紹介、目的とゴール説明、スマホの使用媒体確認、アプリケーションのダウンロード
2	基本のスマホ撮影を学ぶ	被写体を魅力的に見せるための「構図」と「光」の基本。スマホのレンズ特性を活かした静止画・動画撮影実習。
3	基本のスマホ撮影を学ぶ	視聴者を飽きさせない「アングル」の変化と「カメラワーク」。手ブレを抑え、動きのある映像を撮るテクニック
4	ワンカット撮影	編集に頼らず、事前の構成と撮影指示だけで情報を伝える「撮って出し」のワークショップ。
5	基本の動画編集を学ぶ①	専用アプリを用いた基本操作。不要な部分を削ぎ落とし、視聴者がストレスを感じないテンポを作るカット編集。
6	商用フリー素材の活用とライセンス基礎	動画制作を効率化・高品質化するためのBGM・画像・動画素材サイトの紹介。正しく素材を使うためのルール（ライセンス）の理解。
7	基本の動画編集を学ぶ②	テロップ挿入、BGM・効果音の演出。第6回で学んだ外部素材を組み合わせ、情報の優先順位を整理しながらメッセージを強調する編集技法。
8	サムネイルとタイトルの重要性を学ぶ	「クリックされる」ためのコピーライティングと、視覚的インパクトを最大化するデザイン実習。
9	SNSプラットフォーム別の最適化	YouTube、TikTok、Instagramのリール等の特性理解。媒体ごとの構成（縦型・横型）の違いと書き出し設定。
10	ターゲットに刺さる企画立案	誰の、どんな悩みを解決するか（ペルソナ設定）。課題解決型の動画コンセプト設計と構成案作成。
11	【実践】課題制作（撮影編）	企画案に基づいた撮影実習。これまでに学んだ「基本の撮影」と「素材活用」の応用。
12	【実践】課題制作（編集編）	撮影素材とフリー素材を組み合わせた本編集。音響演出やテロップによるクオリティアップ。
13	【実践】課題制作(ブラッシュアップ)	制作途中の動画への相互フィードバック。指摘箇所の修正と、細部のクオリティの追い込み。
14	最終成果物の完成と運用戦略	動画の書き出しと最終確認。
15	試験・成果発表	クラス全員で視聴。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語コミュニケーション I	(NKT17I)
講義名 (コード)	日本語コミュニケーション I A	(NKT17IA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース/ 観光ホスピタリティーコース/Webマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	榊原 倫代	時間数 30
成績評価教員	榊原 倫代	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることで コミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	前半：読解問題を解くためのポイント、新出語彙を学び、実戦問題を解く。 後半：聴解問題を解くためのスキルを学び、様々な形式の聴解問題を解き、解説を加える。
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	試験の傾向を知る	読解・聴解ともに、試験概要・時間把握・模擬試験
2	文章のしくみが理解できる	読解：文章全体の意味をとらえる練習をする 聴解：聴解に必要な「課題理解・ポイント理解・概要理解」の形式を知る
3	対比のしくみが理解できる	読解：ほかのものと比べながら実践問題を解く練習をする 聴解：聴解に必要な「即時応答・総理解」の形式を知る
4	言い換えの仕組みが理解できる	読解：ほかの言葉で言い換える問題を読み解く練習をする 聴解：似ている音、音の変化や縮約形などを聞き分ける練習をする
5	比喩の表現が理解できる	読解：比喩が使われている文章を読み解く練習をする 聴解：「即時応答」のスキルを学ぶ
6	試験の傾向がわかる	模擬試験
7	試験の傾向がわかる	模擬試験 F B
8	疑問提示文について理解できる	読解：なぜ、どうして、どのようになどの疑問文を使って話題を提示する練習 聴解：即時応答—最初の文を理解する
9	筆者の主張表現が理解できる	読解：筆者が自分の意見であることを示す表現を読み解く練習をする 聴解：即時応答—返事の文を考える
10	問いを解く技術を身につけることができる	読解：文章の細かい部分を正確に読み取る練習をする 聴解：「課題理解」のスキルを学ぶ
11	『指示語』が何を指しているかを理解できる	読解：「これ・それ・あれ」などの指示語を読み取る練習をする 聴解：課題理解—すべきことを理解する
12	「だれが」「何が」「何を」などを問う形が理解できる	読解：「だれが・何が・何を」などを読み取る練習をする 聴解：課題理解—最初にすることを考える
13	前期のまとめと解説	試験前のまとめ
14	前期のまとめと解説	期末試験
15	前期のまとめと解説	期末試験のフィードバックを通じて前期勉強したことの確認をする。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等		
教科書	新完全マスター読解N2	新完全マスター聴解N2
参考文献・資料等		
備考		

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語資格対策 I	(NKT17K)
講義名 (コード)	日本語資格対策 I A	(NKT17KA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース/ 観光ホスピタリティーコース/Webマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	田中 清夫	時間数 30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い返しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	日本語能力試験N2の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	試験の傾向がわかる	読解・聴解ともに、試験概要・時間把握・模擬試験
2	自分の困った状況や気持ちを説明できる・人を励ますことができる	文法（ばかりに、ものか、というものだ） 語彙（第1回）
3	自分の状況や決意したことを話せる①	文法（ばこと、ないことはない、わけにはいかない） 語彙（第2回）
4	自分の状況や決意したことを話せる②	文法（のみ、まとめ問題） 語彙（第3回）
5	これまでの経緯や状況の説明ができる①	文法（からみると、一方で、ことから） 語彙（第4回）
6	これまでの経緯や状況の説明ができる②	文法（のみならず、といった、にしたがって） 語彙（第5回）
7	試験の傾向を知る	模擬試験
8	試験の傾向を知る	模擬試験、フィードバック
9	試験の傾向を知る	フィードバック
10	レポートや論説文の説明ができる①	文法（得る、に反して、に関して） 語彙（第6回）
11	レポートや論説文の説明ができる②	文法（反面、理論上は、つつある） 語彙（第7回）
12	レポートや論説文の説明ができる③	文法（に限らず、まとめの問題） 語彙（第8回）
13	ビジネスの場面で社外の人とのやりとりができる	文法（敬語、につきましては、まとめ問題） 語彙（第9回）
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY! 日本語応力試験N2 ドリル&ドリルN2文字語彙
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TOEIC対策Ⅲ	(NKT25C)
講義名 (コード)	TOEIC対策ⅠA	(NKT16IA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	高野 恵	時間数 30
成績評価教員	高野 恵	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	TOEIC5000点を旨す。
全体の内容と概要	TOEICテストの概要を理解し、文法の基礎を復習しながら、確実に問題を解けるようにする。
授業時間外の学修	TOEICテストの概要を理解し、文法の基礎を復習しながら、確実に問題を解けるようにする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	TOEICテストの概要を理解できるようになる	TOEICテストの構成・概要を知る。
2	Part1の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart1の解き方を学ぶ。
3	Part2の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart2の解き方を学ぶ。
4	Part2+3の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart2+3の解き方を学ぶ。
5	Part3の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart3の解き方を学ぶ。
6	Part4の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart4の解き方を学ぶ。
7	Part4+5の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart4+5の解き方を学ぶ。
8	Part5の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart5の解き方を学ぶ。
9	Part6の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart6の解き方を学ぶ。
10	Part6+7の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart6+7の解き方を学ぶ。
11	Part7の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart7の解き方を学ぶ。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 2: Intermediate
参考文献・資料等	
備考	